

〈特集「受動表現」〉

アヤクーチョ・ケチュア語における受動表現* Passive expression in Ayacucho Quechua

諸隈 夕子
Yuko Morokuma

弘前大学人文社会科学部
School of Language and Culture Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿は、特集「受動表現」(『語学研究所論集』第14号, 2009, 東京外国語大学)における調査項目について、アヤクーチョ・ケチュア語における調査結果を記述するものである。

Abstract: The purpose of this paper is to offer the data in Ayacucho Quechua for the research question for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 14, which focuses on the cross-linguistic study of ‘passive expressions’.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001072>

キーワード：受動表現, ヴォイス, ケチュア語, 有生性

Keywords: passive expressions, voice, Quechuan languages, animacy

1. はじめに

本稿では、特集「受動表現」(『語学研究所論集』第14号, 2009, 東京外国語大学)の質問票を用いた聞き取り調査の結果に基づき、アヤクーチョ・ケチュア語における受動表現の文法的特徴を記述する。ケチュア語は、南米アンデス地域で使用するケチュア語族の言語の総称である。本稿ではその地域変種の中でも、ペルー南部のアヤクーチョ県およびその周辺地域で使用する地域変種(以下、アヤクーチョ・ケチュア語)に注目する。

アヤクーチョ・ケチュア語を含むケチュア語は、豊富な接尾辞を用いた形態法を持つ言語である。格標示やヴォイスはそれぞれ名詞接尾辞、動詞接尾辞として標示される。動詞には主語及び目的語の人称と数が接尾辞として標示される。この言語のアラインメントは格標示においても動詞の一致においても一貫して対格型を取る。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

* 本稿は科研費 JP23KJ2153 の支援を受けたものである。

アヤクーチョ・ケチュア語において、受動に直接対応する単一の形態素の存在は報告されていないが、受動に相当する表現を使役-*chi* と再帰-*ku* の組み合わせで表す例が見られる²。さらにケチュア語一般においては、動詞体言化接尾辞-*sqa* を用いた体言化節をコピュラ補語とした構文が受動に類似あるいは相当する表現として言及されることがある (Muysken 1989: 109; Pérez 2005: 79)。そのため、調査においてはこの-*sqa* 体言化節を用いた表現についても容認性判断を行った。

本稿の記述は、コンサルタントへの聞き取り調査の結果に基づいている。コンサルタントは日本在住の40代女性である。第一言語はアヤクーチョ・ケチュア語であり、12歳ごろに第二言語としてスペイン語、成人以降に日本語を習得している。

調査にあたっては、事前に筆者が質問票の例文（スペイン語版）をアヤクーチョ・ケチュア語に翻訳した。調査時に翻訳した例文を質問票の原文と共にコンサルタントに提示し、容認性判断を行った。不適格あるいは不自然とされた文に関しては、適格な文となるよう修正や同義の文の作成を行っていただいた。調査ではスペイン語と日本語を媒介言語として用いた。なお、本稿のアヤクーチョ・ケチュア語の表記法は Zariquiey & Córdova (2008) の表記に基づいている。

2. 受動表現のデータ

調査の結果、被動者が有生物である場合、動詞に使役を表す接尾辞-*chi* と再帰を表す接尾辞-*ku* を接続し、被動者を主語とする受動表現が可能であることがわかった。被動者が無生物の場合この表現は不適格であり、後述する-*sqa* による体言化節を補語としたコピュラ表現を用いるか、能動文としてのみ表現可能であった。

さらに、-*sqa* による体言化節を補語としたコピュラ表現が受動に相当する表現として用いられる場合がある。この表現は全体的に容認性が低く、一部の文脈でのみ認められた。

1-1 A は B に叩かれた。

Andy was hit by Bob.

(1) *Antonio-qa Bruno-wan maqa-ra-chi-ku-n.*

PN-TOP PN-COM hit-PST-CAUS-REFL-3SG.SBJ

「Antonio は Bruno に叩かれた (lit. Bruno を用いて自分を叩かせた)」

(2) *?Antonio-qa Bruno-pa maqa-sqa-n-mi.*

PN-TOP PN-GEN hit-NMLZ.PST-3SG.POSS-FOC

「Antonio は Bruno が叩いた人である」

(1) では動詞 *maqa* 「殴る」に-*chi* と-*ku* が接続している。動詞には三人称単数主語の一致標示が接続している。(1) においては被動者・行為者がともに三人称単数であるため、動詞の一致標示で主語を判別することはできないが、*Antonio* が主格 (-Ø) で標示されていることから、被動者である *Antonio* が主語であることがわかる。このように、アヤクーチョ・ケチュア語では、使役-*chi* と再帰-*ku* を共起させるこ

¹ Parker (1969: 71–72) は稀に再帰-*ku* が受動を表すことがあると指摘している。

² この-*chi-ku* の共起表現は、Parker (1969: 72) では「動作主が自分自身の行動を引き起こすこと、あるいは動作主が他者に対して自分への行動や、習慣的な使役性を引き起こすこと」を表すと記述されている。

とで受動のヴォイスを表すことが可能である。以下、この $-chi$ と $-ku$ の共起による受動ヴォイスの標示を $-chi-ku$ 受動表現と呼ぶ。

(1) においては、行為者 *Bruno* が $-wan$ で標示されている。この *Bruno* を奪格 $-manta$ ，与格 $-man$ 等で標示するミニマルペアを作ったところ、不自然であると判断された。このように、 $-chi-ku$ 受動表現における行為者は、道具格 $-wan$ で標示される。

(2) は $-sqa$ を用い、体言化節 *Bruno-pa maqa-sqa-n-mi*「Bruno が殴った」を被動者 *Antonio* に対するコピュラ補語として用いた作例である。このように $-sqa$ 体言化節を用いた表現は、この文意を表す表現としては不自然であると判断された。

1-2 A は B に足を踏まれた。
 Andy's foot was stepped on by Bob.

(3) *Antonio-qa Bruno-wan chaki-n-ta saru-ra-chi-ku-n.*
 PN-TOP PN-COM foot-3SG.POSS-ACC step-PST-CAUS-REFL-3SG.SBJ
 「Antonio は Bruno に足を踏まれた (lit. Bruno を用い、自分に対して足を踏ませた)」

(4) **Antonio-qa Bruno-pa chaki-n suwa-sqa-n-mi.*
 PN-TOP PN-COM foot-3SG.POSS hit-NMLZ.PST-3SG.POSS-FOC
 意図した意味：「Antonio は Bruno がその足を踏んだ人である」

主語の所有物が被動者となる受動文を $-chi-ku$ 受動表現で作ることもできる。(3) では動詞 *saru*「踏む」に $-chi$ と $-ku$ が接続している。(3) においては、被動者の不可分な所有者にあたる *Antonio* が主格で標示されており、主語として機能している。直接の被動者である *chaki-n*「彼 (*Antonio*) の足」は対格 ($-ta$) で標示されている。行為者である *Bruno* は (1) と同様に道具格で標示されている。

(4) は体言化節 *Bruno-pa chaki-n suwa-sqa-n*「Bruno が彼の足を踏んだ」を被動者 *Antonio* に対するコピュラ補語として用いた作例である。このように $-sqa$ 体言化節を用いた表現は、この文脈においても不自然であると判断された。

1-3 A は B に財布を盗まれた。
 Andy's wallet was stolen by Bob.
 Andy had his wallet stolen by Bob.

(5) *Antonio-qa Bruno-wan billetera-n-ta suwa-ra-chi-ku-n.*
 PN-TOP PN-COM wallet-3SG.POSS-ACC steal-PST-CAUS-REFL-3SG.SBJ
 「Antonio は Bruno に財布を盗まれた (lit. Bruno を用い、自分に対して財布を盗ませた)」

(6) **Antonio-qa Bruno-pa billetera-n suwa-sqa-n-mi.*
 PN-TOP PN-COM wallet-3SG.POSS steal-NMLZ.PST-3SG.POSS-FOC
 意図した意味：「Antonio は Bruno がその財布を盗んだ人である」

被動者が可分の所有物の場合も、不可分所有に基づく受動である 1-2 と同様の受動表現を作ることができる。(5) では動詞 *suwa*「盗む」に $-chi$ と $-ku$ が接続している。被動者の所有者である *Antonio* は主格

(-Ø), 被動者である *billeta-n* 「彼 (Antonio) の財布」は対格-*ta* で標示されている。ただし、所有物である被動者 *billetera-n* 「彼の財布」を主語とした受動表現は作れない (1-7 参照)。

(6) は体言化節 *Bruno-pa billetera-n suwa-sqa-n* 「Bruno が彼の財布を盗んだ」を被動者 Antonio に対するコピュラ補語として用いた作例である。1-2 と同様、-*sqa* 体言化節を用いた表現は、この文脈においても不自然であると判断された。

1-4 昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。

Last night, the baby cried. So, I couldn't sleep at all.

(7) **Tuta-pi ñuqa-qa wawa-y-wan waqa-ra-chi-ku-chka-ni*
night-LOC 1SG.PRON-TOP child-1SG.POSS-COM cry-PST-CAUS-REFL-PROG-1SG

hina-spa-n mana puñu-ru-ni-chu.

be.like.that-SR.SS-3SG.SBJ NEG sleep-PST-1SG.SBJ-NEG

意図した意味：「昨夜、私は自分の子供に泣かれていた (lit. 自分の子供を用い、自分に対して泣かせていた)。それで寝なかった」

(8) *Tuta-pi ñuqa-qa wawa-y-pa waqa-sqa-n-wan*
night-LOC 1SG.PRON-TOP child-1SG.POSS-GEN cry-NMLZ.PST-3SG.POSS-COM

mana puñu-ru-ni-chu.

NEG sleep-PST-1SG.SBJ-NEG

「昨夜、私は自分の子供が泣いたことによって寝なかった」

アヤクーチョ・ケチュア語では、自動詞からの受け身に相当する表現は作ることができない。(7) は不適格とされた-*chi-ku* 受動表現での作例である。

(8) はこの文意を表すのに適格とされた作例である。体言化節 *wawa-y-pa waqa-sqa-n* 「私の子供が泣いたこと」に道具格-*wan* が接続し、主文における理由を表す付加詞節を成している。

1-5 新しいビルが (A によって) 建てられた。

A new building was built (by Andy).

(9) ?*huk musuq wasi (Antonio-wan) ruwa-ra-chi-ku-n.*
a new house PN-COM make-PST-CAUS-REFL-3SG.SBJ
「ある新しいビルが (Antonio に) 作られた (lit. Antonio を用いて自分を作らせた)」

(10) *huk musuq wasi-qa (Antonio-pa) ruwa-sqa-n-mi.*
a new house-TOP PN-COM make-NMLZ.PST-3SG.POSS-FOC
「ある新しいビルは Antonio が作ったものである」

-*chi-ku* 受動表現は、非生物が被動者となる場合に用いることはできない。(9) は被動者 *huk musuq wasi* 「新しいビル (建物)」を主語とした-*chi-ku* 受動表現の作例であるが、これは不自然な表現と判断され

た。

(10) は接尾辞-*sqa* による体言化節 *ruwa-sqa-n* 「作られた」を用い，被動者を主語としたコピュラ文として表現したものである。1-5 に関しては，このような表現が適格とされた。ただし，これは「(Antonio に) 建てられた」という意味を結果状態として表現したものであり，「建てられる」という出来事を動的に表現するには不適切とされた (cf. 1-6, 1-9)。

1-6 カナダではフランス語が話されている。

French is being spoken in Canada.

(11) **Canada-pi frances-qa rima-chi-ku-n.*

Canada-LOC french-TOP speak-CAUS-REFL-3SG.SBJ

意図した意味：「カナダではフランス語が話されている (lit. 自分を話させている)」

(12) **Canada-pi frances-qa rima-sqa-n-mi.*

PN-LOC french-TOP speak-NMLZ.PST-3SG.POSS-FOC

意図した意味：「カナダではフランス語が話されているものである」

(13) *Canada-pi frances-ta rima-nku.*

PN-LOC french-ACC speak-3PL.SBJ

「カナダでは彼/彼女らがフランス語を話している」

1-5 と同様，*frances* 「フランス語」のような非生物が被動者となる場合，(11) のような-*chi-ku* 受動表現を用いることはできない。さらに，1-5 (10) とは異なり，(12) のような-*sqa* 体言化節を用いたコピュラ表現も不適格とされた。

(13) は 1-5 の文意を表すのに適格とされた作例である。このように，非生物が被動者となるとき，(13) のように能動文で表現しなければならない場合がある。

1-7 財布が (A に) 盗まれた。

The wallet was stolen by Andy.

(14) **billetera-y-qa (Antonio-wan) suwa-ra-chi-ku-n.*

wallet-1SG.POSS-TOP PN-COM steal-PST-CAUS-REFL-3SG.SBJ

意図した意味：「私の財布は (Antonio に) 盗まれた (lit. Antonio を用いて自分を盗ませた)」

(15) ?*billetera-y-qa (Antonio-pa) suwa-sqa-n-mi.*

wallet-1SG.POSS-TOP PN-GEN steal-NMLZ.PST-3SG.POSS-FOC

「私の財布は彼/彼女 (= Antonio) が盗んだものである」

(16) *billetera-y-ta (Antonio-wan) suwa-ra-chi-ku-ni.*

wallet-1SG.POSS-ACC PN-COM steal-PST-CAUS-REFL-1SG.SBJ

「私は自分の財布を (Antonio に) 盗まれた (lit. Antonio を用いて自分の財布を盗ませた)」

1-5 と同様, (14) のように非生物 *billetera-y* 「私の財布」が被動者となる *-chi-ku* 受動表現は不適格である。(15) のような *-sqa* 体言化節を用いた表現も不自然とされた。

この文脈では, (16) のように財布の所有者を主語とする *-chi-ku* 受動表現が適格とされた。(16) において, 動詞 *suwa-ra-chi-ku-ni* 「私は盗まれた」においては一人称単数主語の一致標示 *-ni* が現れている。加えて一人称目的語の一致標示 *-wa* が現れていないことから, *-chi-ku* 受動表現においては「私」が動詞の一致において主語として扱われていることがわかる。

1-8 壁に絵が掛けられている。

A picture is on the wall.

(17) *pirqa-pi cuadro-qa (wipi/warku)-ra-chi-ku-n.

wall-LOC picture-TOP hang-PST-CAUS-REFL-3SG.SBJ

意図した意味: 「壁に絵が掛けられている」

(18) *pirqa-pi cuadro-qa (wipi/warku)-sqa-n-mi.

wall-LOC picture-TOP hang-NMLZ.PST-3SG.POSS-FOC

意図した意味: 「壁に絵が掛かった状態である」

(19) pirqa-pi cuadro warku-rama-chka-n.

wall-LOC picture hang-CONT-PROG-3SG.SBJ

「壁に絵が掛かっている」

1-5 と同様, (17) のように非生物である *cuadro* 「絵」が被動者となる *-chi-ku* 受動表現は不適格である。さらに, この文脈では (18) のように *-sqa* 体言化節を用いた表現も不可能だった。

(19) はこの文脈で適格とされた作例である。(17) (18) において筆者が作例として用いた動詞 *wipi* は, アヤクーチョ・ケチュア語では「掛ける」として解釈不能とされた。(19) は *wipi* に代わり *warku* 「掛かる」³を用い, *cuadro* 「絵」を主語とした自動詞文である。

1-9 A は B に／から愛されている。

Andy is loved by Bob.

(20) Antonio-qa Bruno-wan kuya-chi-ku-n.

PN-TOP PN-COM love-CAUS-REFL-3SG.SBJ

「Antonio は Bruno に愛されている」

(21) Antonio-qa Bruno-pa kuya-sqa-n-mi.

PN-TOP PN-COM love-NMLZ.PST-3SG.POSS-FOC

「Antonio は Bruno が愛する人である」

³ ただし, Cerrón-Palomino (1994) など辞書によっては他動詞「掛ける」として記載されている。この動詞がアヤクーチョ・ケチュア語において自動詞のみとして解釈可能なのか, 自他同形の動詞なのかについては不明である。

1-9 における被動者は有生物であるため，(20) のように *-chi-ku* 受動表現を作ることができる。さらに，この文脈では，(21) のように *-sqa* 体言化節を用いた表現も自然とされた。このように，1-8 以前との観察と異なり，*-sqa* 体言化節の示す内容が結果状態でなくても *-sqa* 体言化節による受動表現が可能な場合がある (cf. 1-5 (10)).

1-10 A は B に／から「…」と言われた。

Bob said “...” to Andy.

(22) Antonio-qa Bruno-wan “allinllachu” ni-ra-chi-ku-n.

PN-TOP PN-COM hello say-PST-CAUS-REFL-3SG.SBJ

「Antonio は Bruno に『こんにちは』と言われた」

(23) *Antonio-qa Bruno-pa “allinllachu” ni-sqa-n-mi.

PN-TOP PN-GEN hello say-NMLZ.PST-3SG.POSS-FOC

意図した意味：「Antonio は Bruno が『こんにちは』と言った人である」

被動者 *Antonio* が有生物であるため，(22) のように被動者を主語とした *-chi-ku* 受動文が可能である。一方，(23) のような，*-sqa* 体言化節を用いた表現は不適格とされた。

1-10-a A さんは B さんに呼ばれて，今 B さんの部屋に行っています。

Andy was called by Bob, and is in Bob’s room now.

(24) Antonio-qa Bruno-wan qaya-ra-chi-ku-n hina-spa-n

PN-TOP PN-COM call-PST-CAUS-REFL-3SG.SBJ be.like.that-SR.SS-3SG.SBJ

Bruno-pa habitacion-ni-n-pi ka-chka-n.

PN-GEN room-EUPH-3SG.POSS-LOC be-PROG-3SG.SBJ

「Antonio は Bruno に呼ばれた。そして，Bruno の部屋にいる」

(25) *Antonio-qa Bruno-pa qaya-sqa-n-mi hina-spa-n

PN-TOP PN-GEN call-NMLZ.PST-3SG.POSS-FOC be.like.that-SR.SS-3SG.SBJ

Bruno-pa habitacion-ni-n-pi ka-chka-n.

PN-GEN room-EUPH-3SG.POSS-LOC be-PROG-3SG.SBJ

意図した意味：「Antonio は Bruno が呼んだ人である。そして，Bruno の部屋にいる」

(26) ?Antonio-qa Bruno-pa qaya-sqa-n-wan

PN-TOP PN-GEN call-NMLZ.PST-3SG.POSS-COM

Bruno-pa habitacion-ni-n-pi ka-chka-n.

PN-GEN room-EUPH-3SG.POSS-LOC be-PROG-3SG.SBJ

「Antonio は Bruno が呼んだことによって Bruno の部屋にいる」

1-10 (22) と同様、被動者 *Antonio* が有生物であるため、(24) のように被動者を主語とした *-chi-ku* 受動文が可能である。

(25) のように、「Bruno が呼んだ」を表す *-sqa* 体言化節をコピュラ補語とした表現は不適格とされた。(25) ではコピュラ文 *Antonio-qa Bruno-pa qaya-sqa-n-mi* 「Antonio は Bruno が呼んだものである」と *Bruno-pa habitacion-ni-n-pi ka-chka-n* 「(彼/彼女が) Bruno の部屋にいる」が *hina-spa-n* 「そのようにして」によって接続している。

-sqa 体言化節を用いた表現としては、(26) がやや不自然であるが適格とされた。(26) は体言化節 *Bruno-pa qaya-sqa-n* 「Bruno が呼んだ」に道具格 *-wan* を接続し、理由を表す付加詞句として用いている。

1-10-b B さんが A さんと呼んで、A さんは今 B さんの部屋に行っています。

Bob called Andy, and Andy is in Bob’s room now.

(27) Bruno Antonio-ta qaya-pti-n
PN PN-ACC call-SR.DS-3SG.SBJ

Antonio-qa Bruno-pa habitacion-ni-n-pi ka-chka-n.
PN-TOP PN-GEN room-EUPH-3SG.POSS-LOC be-PROG-3SG.SBJ
「Bruno が Antonio を呼び、Antonio は Bruno の部屋にいる」

アヤクーチョ・ケチュア語は *switch reference* の標示を持つ。*-spa* は主語の継続、*-pti* は主語の交代を表す。(27) では、*qaya* 「呼ぶ」に *-pti* が接続し、*qaya* の主語と *ka* 「いる」の主語が異なることを示している。

略号一覧

ACC	accusative	CAUS	causative	COM	comitative
CONT	continuative	DS	different subject	EUPH	euphonism
FOC	focus	GEN	genitive	LOC	locative
NEG	negative	NMLZ	nominalizer	OBJ	object
PL	plural	PN	proper name	POSS	possessive
PROG	progressive	PRON	pronoun	PST	past
REFL	reflexive	SBJ	subject	SG	single
SR	switch reference	SS	same subject	TOP	topic
1	1st person	3	3rd person		

参考文献

- Cerrón-Palomino, Rodolfo. 1994. *Quechua Sureño: Diccionario Unificado*. Lima: Biblioteca Nacional del Perú.
 Muysken, Pieter. 1989. Predication Chains: Case and Argument Status in Quechua and Turkish. *Linguistic Inquiry*. The MIT Press 20(4). 627–645.
 Parker, Gary John. 1969. *Ayacucho Quechua Grammar and Dictionary*. The Hague: Mouton.

Pérez, Julio Calvo. 2005. Transitividad, aglutinación y subordinación en lengua quechua. *Lexis* 29(1). 79–96.

Zariquiey, Roberto & Gavina Córdova. 2008. *Qayna, Kunan, Paqarin. Una Introducción Práctica al Quechua Chanca*. San Miguel: Pontificia Universidad Católica del Perú.

執筆者連絡先：y.ukumari322@gmail.com

原稿受理：2024 年 12 月 12 日